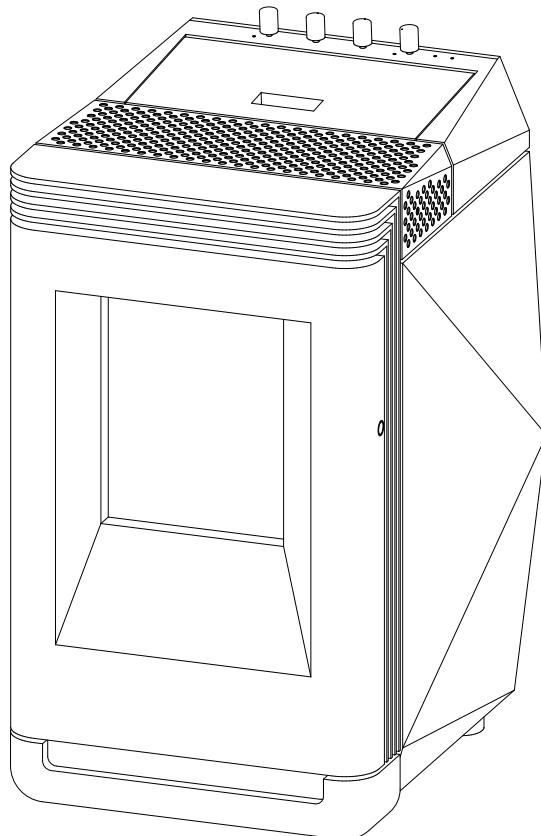


concord
ALCOTT

取扱説明書

品番 AL-24

このたびは、本品をお買い上げ頂きまことにありがとうございます。ご使用前に、この取扱説明書を必ずお読みのうえ、正しくご使用ください。お読みになった後は、大切に保管して頂き、取り扱いの分からぬときや不具合が生じたときにお役立てください。



保証書別添付

安全上のご注意

安全に使用していただくための重要な項目ですので必ずお読みください。

このペレットストーブは、暖房用です。室内暖房以外のご使用は絶対しないでください。室内暖房以外でご使用になった場合の故障・修理・事故その他の不具合については、責任を負いかねますのでご了承ください。

ここに表示した事項は、安全に関する重大な内容の記載です。表示の意味は次のようになっています。



警告

誤った取り扱いをすると、使用者が死亡または重症を負う危険が切迫して生じることが想定される内容を示します。



注意

誤った取り扱いをすると、使用者が死亡または重症を負う危険が想定される内容を示します。



してはいけない「禁止」事項です。



しなければならない「実施」事項です。



「注意」事項です。



絶対に分解・修理・改造はしないでください。



絶対に触れないでください。



必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

警 告

高温部接触禁止

ストーブ運転中、及び運転停止後しばらくは、高温部、給排気筒等に触れないでください。やけどの恐れがあります。特に小さいお子様の見える家庭では、ストーブに触らせないよう、ガードなどを使用し、十分な配慮をしてください。



禁止

可燃物接触禁止

カーテンや洗濯物など燃えやすい物の近くでは使用しないでください。また、スプレー・ガソリンなど引火の恐れがあるものは近づけないでください。発火、火災の恐れがあります。



禁止

木質ペレット燃料以外混入禁止

燃料タンクには木質ペレット燃料以外の物を入れないでください。故障の原因になります。



禁止

燃焼室異物混入禁止

燃焼室には、紙、布などを入れないでください。また、ライター、マッチでの着火、着火剤は使用しないでください。



禁止

ストーブの上に物を置かない

ストーブの上に用途以外の物を置かないでください。
加熱し危険です。



禁止

給排気筒のはずれ危険

給排気筒が正しく接続しているか点検してください。外れていると運転中に燃焼ガスが室内に漏れて危険です。



実施

分解修理禁止

故障、破損したら使用しないでください。
不完全な修理や改造は危険です。お買い求めの販売店に修理を依頼してください。



分解禁止

異常時使用禁止

臭い、煙、煤の発生、異音など、異常を感じたときは運転を停止してください。
火災や異常燃焼の恐れがあります。



禁止

警 告

お手入ればストーブが完全に冷えてから

運転後にストーブが停止してもしばらくは本体と給排気筒は高温になっています。本体が完全に冷えてから行ってください。
やけどの恐れがあります。



禁止

ストーブ運転中は扉、灰受皿を開けないでください。

火災、やけど、異常燃焼の恐れがあります。



禁止

燃料タンクフタの開放厳禁

ストーブの運転中は燃料タンクのフタを開けないでください。
異常燃焼や火災の原因になります。



禁止

給排気筒閉そく危険

積雪や異物などで、給排気筒の先端がふさがれているときは取り除いてください。
運転中に燃焼排ガスが室内に漏れて危険です。



実施

アースを取り付ける

漏電時に感電の恐れがあります。
アース工事は必ず販売店に依頼してください。



実施

据付上の注意

お客様ご自身による設置は危険です。据付工事や移転工事は、必ず弊社指定店をご依頼ください。施工上の責任は弊社では負いかねます。
ストーブ及び給排気筒の据付には、各地の火災予防条例に従って据付けてください、



実施

雷サージの取り付け

落雷が多発する地域では、雷サージ付き電源タップの使用をお勧めします。



実施

異常時使用禁止

臭い、煙、煤の発生、異音など、異常を感じたときは運転を停止してください。
火災や異常燃焼の恐れがあります。



禁止

警 告

電源プラグのお手入れ

電源プラグにほこりや金属が付着している場合は、取り除いてください。
ほこりが溜まると湿気などで絶縁不良になり、感電・ショートの原因になります。



ほこりやゴミを取り除く

使用しないときは電源プラグを抜く

使用しないときや、お手入れの際は電源プラグを抜いてください。また、濡れた手で電源プラグの抜き差しはしないでください。
火災や感電、予期しない事故の原因になります。



プラグを抜く

電源コードの破損注意

電源コードに物を載せたり、高温部に近づける等、電源コードを破損させる行為はしないでください。またプラグを抜く際は、コードを持って引き抜かないでください。
火災や感電の原因になります。



実施

電源プラグは確実に差込む

電源プラグはコンセントの根元までしっかりと差込んでください。また傷んだプラグや差しが緩いコンセントには使用しないでください。
火災や感電の原因になります。



実施

電源の接続

電源は適切に配線された単相100V以外では使用しないでください。また延長コード等で電源を延長したり、たこ足配線にしないでください。
発熱・発火の原因になります。



禁止

木質ペレットは食べ物ではありません

乳幼児や小さなお子様が誤って口に入れないよう充分注意してください。



禁止

ストーブのお手入れ

ストーブ表面のお手入れには、研磨剤を含んだ洗剤は使用しないでください。塗装の剥がれや錆の原因になります。



禁止

ストーブの上に花瓶等の液体の入ったこぼれやすい物や、用途以外の物を置かない

水が内部に入ると感電や故障の原因になります。また高温状態のガラスに水がかかると、割れる恐れがあります。



禁止

目 次

安全上のご注意	1 ~ 4
目次	5
各部の名称と機能	6 ~ 7
使い方	8 ~ 13
燃料の確認	8
ペレットの補給	8
扉	8
トップカバー	8
初めて使用するとき	8
運転の開始	8
火力と温風の調整	8
燃焼に必要な給気量の調整	9
運転の停止（消火）	9
消火中の再起動について	9
着火タイマーの設定	9
運転中にペレットがなくなったら	9
お掃除モード	9
日常のお手入れ	10 ~ 12
定期的なお手入れ	10 ~ 12
オフシーズンのお手入れ	12
オフシーズン中の保管	13
販売店によるメンテナンス	13
ストーブの移転	13
危険な状態と対処法	14
正常な状態	14
危険な状態	14
危険な状態の対処法	14
故障かな？と思ったら	15 ~ 17
仕様	18

各部の名称と機能

トップカバー

取外してポット等を置くことができます

燃焼タンク

木質ペレット燃料が入るタンクです
容量：10kg

温風吹出口

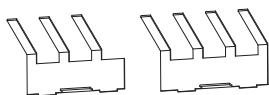
炉内で暖めた空気を送り出します

熱交換パイプ

温風が通るパイプです

バッフルプレート

燃焼効率を高めるための板です



燃焼室

扉レバー差込口

扉レバーを差込口にセットします

扉

扉レバー

扉レバー差込口にセットし扉を開け閉めします

セラミックボード

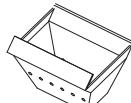
燃焼室の後壁

燃料落下口

ペレットが落ちてきます

燃焼ポット

ペレットを効率的に燃焼させます

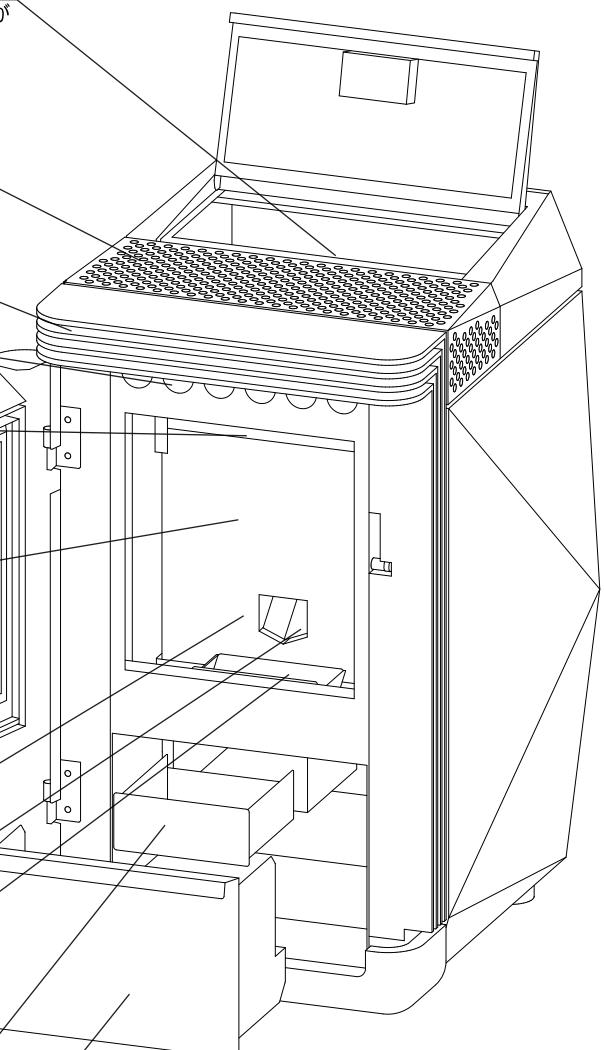


灰受皿（小）

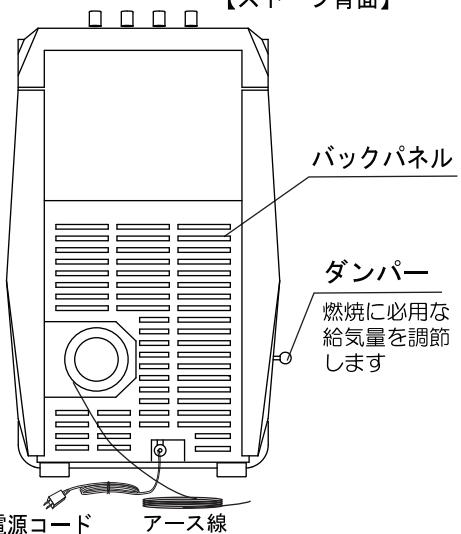
燃焼後の灰が溜まります

灰受皿（大）

燃焼後の灰が溜まります



【ストーブ背面】



バックパネル

ダンパー

燃焼に必要な給気量を調節します

電源コード アース線

各部の名称と機能

コントロールパネル

着火タイマーダイヤル

- 着火字管を予約します。

火力ダイヤル

- ペレットの供給量を調整します。

ブザー音がビットとなってお知らせします。

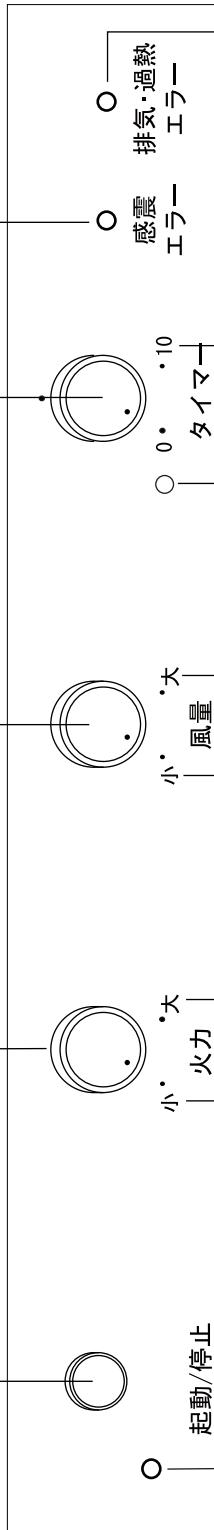
運転スイッチ

- ストーブの運転・停止を行います。

温風ダイヤル

- 温風量を調整します。

感震エラー
• 地震等のおさかな揺れを感じ
しこきにランプ(黄)
が点滅してお知らせします。
ランプ点滅



使い方

【燃料の確認】

このペレットストーブは、木質ペレット燃料専用です。ボイラー用のバーカペレットや、木質以外が含まれるペレットは使用できません。木質ペレットは原料や産地などにより品質（熱量や灰の多さ）が異なります。使用するペレットはストーブを購入された販売店によく確認してください。

※保管している間にペレットが湿気を持つことがあります。湿気を持ったペレットを使用すると着火にくくなり、不完全燃料の原因になります。

【ペレットの補給】

使用前には燃料タンクを確認し、ペレットを補給してください。燃料タンクの容量は10kgです。

火力が最大で6時間、最小で16時間燃焼します。

※ペレットの補給は運転前に行ってください。ペレット補給後は燃料タンクのフタを確実に閉め、運転中は燃料タンクのフタを開けないでください。異常燃焼や火災の原因となります。

【扉】

扉は付属の扉レバーで開閉します。扉レバー差し込み口に扉レバーをはめ込み、回すとロックがかかります。扉が閉まってないと、空気の流れが無くなるので不完全燃焼やトラブルの原因となります。扉はロックがかかるまでしっかりと閉めてください。

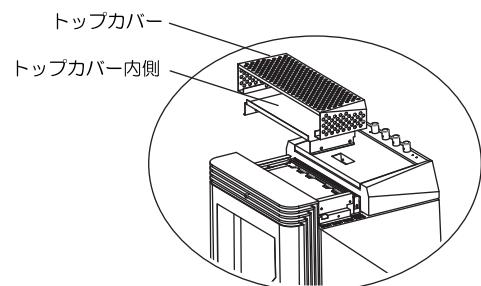
【トップカバー】

トップカバーを外し、次にトップカバー内側を外します。

ストーブの上にやかん等を乗せ使用することができます。

※トップカバーを外す際はやけどに十分注意してください。

※水や熱湯がこぼれないように十分に気を付けてください。



【初めて使用するとき】

初めて使用するときはコンセントに電源を接続してください。

尚燃料タンクが空の場合は、ペレットが供給されるまで少し時間がかかります。

運転スイッチを押す前に、燃焼ポットにペレットを適量（2つかみ・燃焼ポットの1/3くらい）入れてください。

【運転の開始】

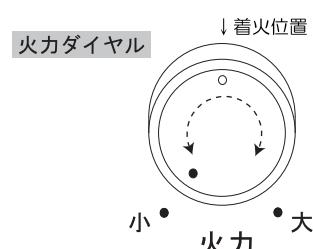
火力ダイヤルを中（12時方向）にしてから運転

スイッチを押してください。

※火力が大きすぎると、着火時に大量の煙が出ます。

また煙に引火して一気に燃えるため危険です。

※火力が小さすぎると、火種が少ないため着火に失敗するか着火後に立消えすることがあります。

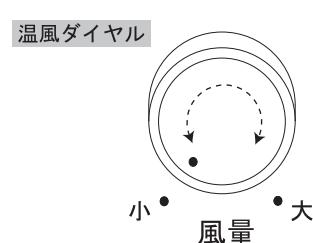


【火力と温風の調整】

温風吹き出し口から温風が出てきたら火力と温風量を調整してください。

火力が大きすぎたり、温風量が小さすぎると、ストーブ本体が高温になるため安全装置が働きます。

一時的に温風が強くなり炎が小さくなります、一定温度まで下がると元に戻ります。

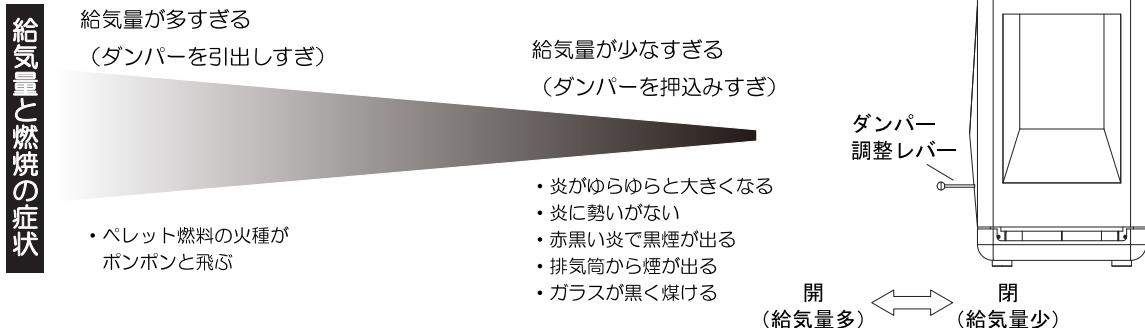


使い方

【給気量の調整】

本体左側のダンパーで燃焼に必要な給気量を調整します。通常は中間の場所で使用します。給気量が多いと火種が飛ばされ立消えしやすくなります。その場合はダンパーを押し込んでください。給気量が少ないと不完全燃焼になりやすくなります。黒い煙が出で燃えている場合はダンパーを引いて給気量を多くします。（14Pの良い燃焼を参考にしてください）

ダンパー調整レバーは引き出すと給気量が多くなり、押し込むと少なくなります。



【運転の停止（消火）】

消火する時は運転スイッチを押します。運転ランプ（緑）が消灯してペレットの供給が止まります。火が消えても本体の温度が下がるまで送風と排気は動作し、一定の温度以下で自動で停止します。

【消火中の再起動について】

消火中に運転スイッチを押すと再起動できますが、燃焼状態によっては着火に失敗することがあります。

危険です。消火後に10Pの「日常のお手入れ」を参考に清掃を行ってください。

【着火タイマーの設定】

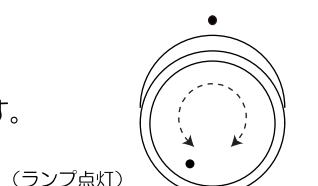
着火タイマーは、ストーブが停止しているときにセットできます。

起動するまでの時間分タイマーのダイヤルを回し、運転スイッチを押します。

1時間ごとにダイヤルが止まります。最大10時間後まで設定できます。

タイマー設定時はタイマーランプが点灯します。

※設定時間を変更される場合は、タイマーダイヤルを0に戻してから



もう一度セットしてください。

※タイマーは自動で0に戻らないので着火後に手動で0に戻してください。

タイマー

【運転中にペレットがなくなったら】

運転中にペレットがなくなると、運転ランプ（緑）の点滅とブザー音でお知らせします。

燃料タンクにペレットを補充し、火力ダイヤルを12時方向にしてから運転スイッチを押してください。

【お掃除モード】

排気ファンを運転させて室内に灰が舞うのを抑ます。日常のお手入れの際にご利用ください。

下記の手順でお掃除モードになります。

① 本体が停止している状態で運転スイッチを押します。

② 2~3秒後もう一度運転スイッチを押します。運転ランプが消灯して排気ファンのみが動作します。

※お掃除モードは30分後に自動で停止します。

使い方

【日常のお手入れ】

日常のお手入れは、ストーブが停止中に行ってください。消火後に行う場合は、ストーブが冷えた状態になってから行ってください。

■燃焼ポットの掃除

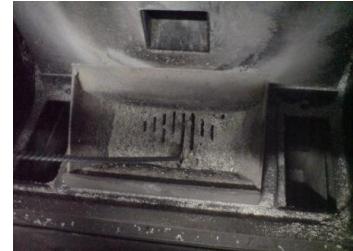
燃焼ポットの底に灰が堆積した状態でお使い頂くと、着火に失敗したり着火時に大量の煙が出ることがあります。

使用前または、使用後に燃焼ポットの灰掃除を行ってください。

①掃除用のハケでポットの底に残った灰を下の灰受け皿に落とします。

クリンカーと呼ばれる硬い灰の塊で燃焼ポットの底が塞がれている場合は、ハケの柄等の硬い物で灰を落としてください。

②着火ヒーターのカバーに灰がたまっている場合は取り除いてください。



■窓ガラスの掃除

窓ガラスが曇っていると燃焼状態を確認できず危険です。窓ガラスはきれいな状態にしてください。

ガラスに付着した汚れは、水を含ませた新聞紙に灰を少し付けて拭くとよく落ちます。



■ストーブ本体の掃除

ストーブの塗装は放熱性を高める特殊な塗装で塗装されており、強く擦ると傷がつきます。本体の扉等の掃除を行うときは柔らかい布で拭うように掃除してください。

■灰の処理

灰受皿（大）と灰受皿（小）にたまつた灰は、お住まいの市町村の条例に従って定期的に捨ててください。



【定期的なお手入れ】

日常のお手入れの他、1ヶ月に1度は定期的なお手入れを行ってください。

■燃料タンクの掃除

燃料タンクの底にたまつたペレットの粉は、燃料詰まりや立消えの原因になります。定期的にペレットを使い切り、燃料タンクの底にたまつたペレットの粉を掃除機で吸い取ってください。



■熱交換パイプの掃除

温風を出すための熱交換パイプに付着した灰は、付属のハケで掃除します。

①燃焼室上部（熱交換パイプ）のバッフルプレートを取り外します。

②付属のハケで熱交換パイプに付着した灰を落とします。

③燃焼室内に落ちた灰を灰受皿に掃い落します。

④バッフルプレートを取り付けます。

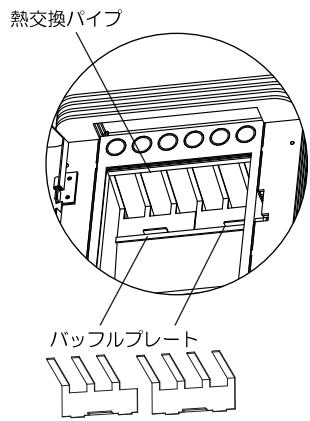
※バッフルプレートは熱交換及び排気経路に多くの灰が吸い込まれることを防ぐ目的がありますので、正しく取り付けてください。

■バックパネルの掃除

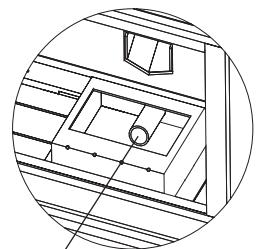
ストーブ背面に付着したほこりは定期的に掃除機などで取り除いてください。

使い方

【燃焼炉上部】

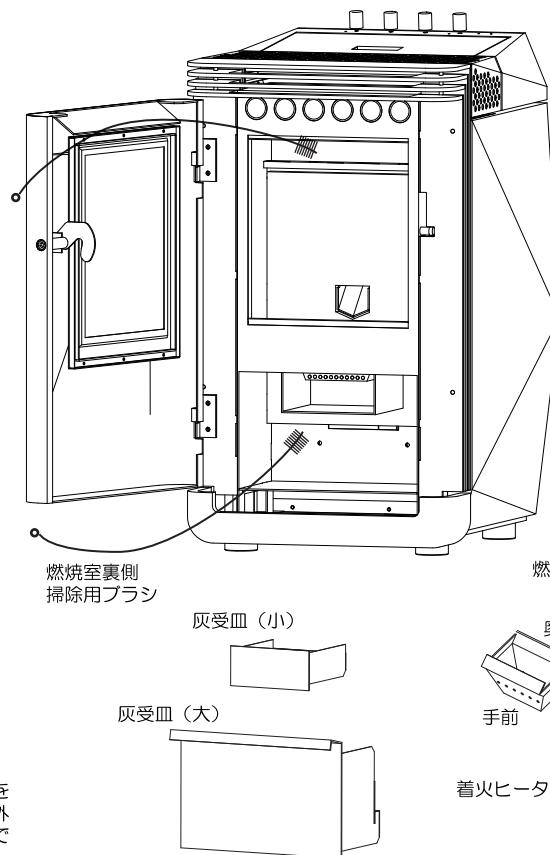
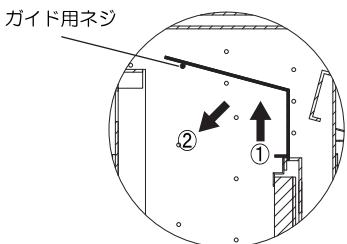


【燃焼ポットを取外した状態】

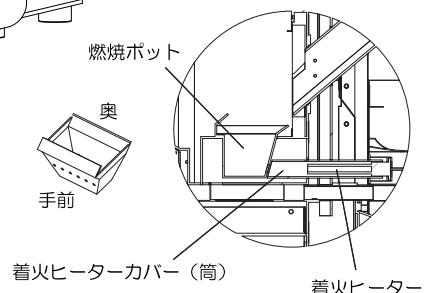


点火ヒーターカバー（筒）にたまつた灰を取除く

【バッフルプレート断面】



【燃焼部断面】



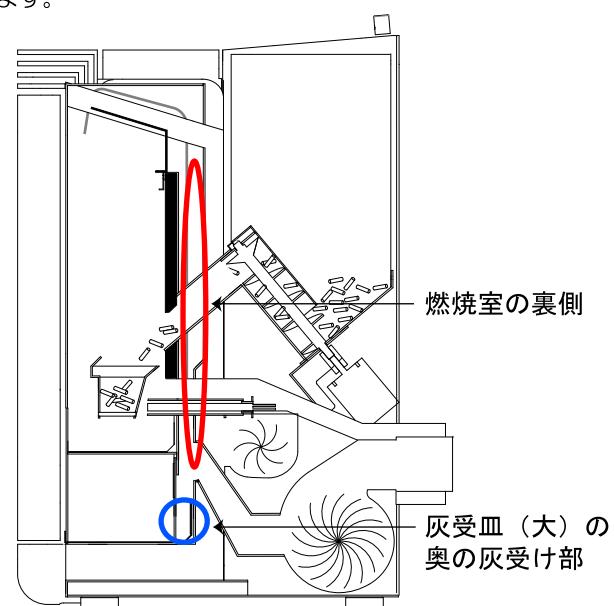
【燃焼室の裏側のお手入れ】

ご使用の頻度にもよりますが、月に1回程度は燃焼室の裏側の掃除を行ってください。

付属の燃焼室裏側掃除用ブラシで下図の赤丸の箇所を清掃します。

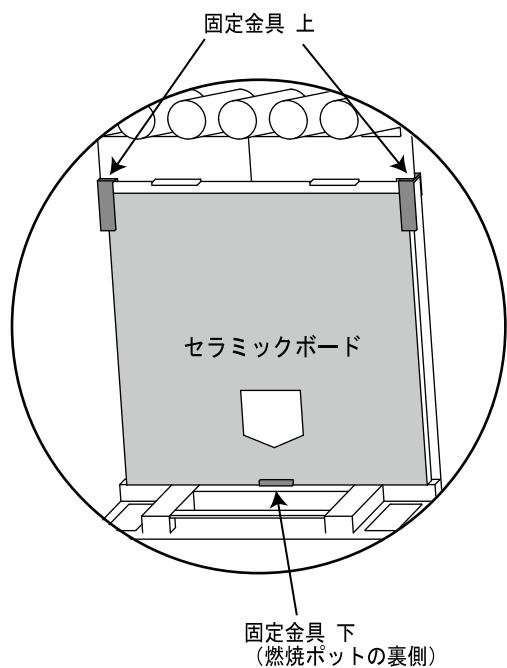
- ①バッフルプレートと灰受皿（大）を取り外します。
- ②排気経路の上部、下部から付属の裏側掃除用ブラシを入れて灰を落としてください。
- ③灰は灰受け皿の奥の灰受け部（図の青丸の箇所）に落ちます。
掃除用のハケ等で落ちてきた灰を取り除きます。
- ④バッフルプレートを元に戻してください。

※中央はペレットの搬送路があり途中でブラシが詰まります。無理に押し込まないよう注意して下さい。
※作業の際は炉内の構造物や突起物等で怪我をしないように注意して下さい。



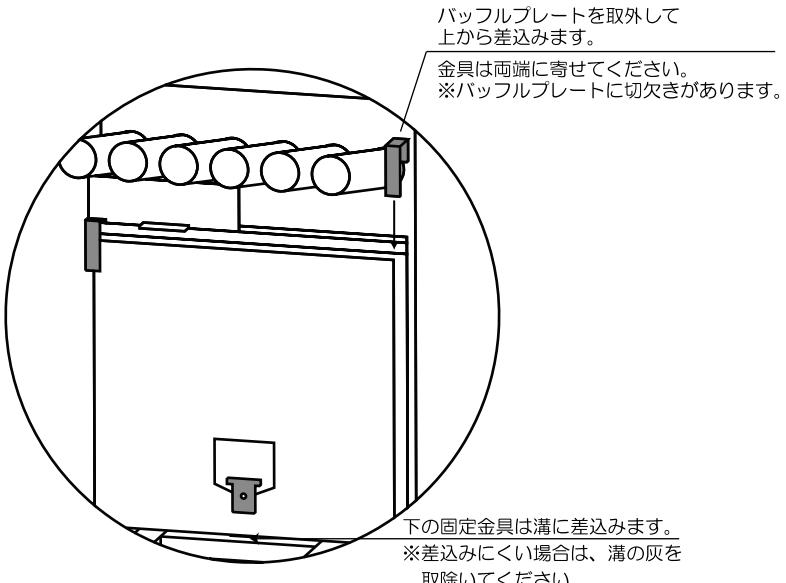
使い方

【セラミックボードの固定金具について】



ストーブのお手入れの際、掃除用のブラシ等でセラミックボードの固定用の金具が外れたりずれることができます。
この金具が外れた状態でお使い頂くと、セラミックボードが外れてボードが破損することがあります。

お手入れの際に固定金具が外れたりずれたりした場合は、図をご参考にして元に戻してください。



【オフシーズンのお手入れ】

オフシーズンになったら、排気経路に付着した灰を掃除します。

《給排気筒内の掃除》

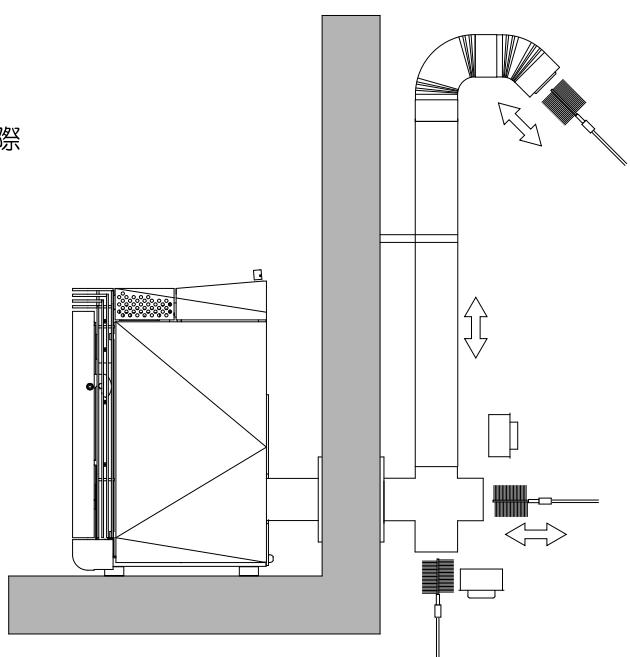
■給排気筒の掃除

給排気筒に付着、堆積した灰を専用の掃除用ブラシで掃除します。

横の配管とT字管の底は灰が堆積しやすいので掃除の際重点的に清掃してください。

2Fに設置など、設置場所や配管によってはお客様ご自身での清掃が難しかったり危険な場合もあります。

お客様ご自分で行うのが困難な場合は、お買い上げの販売店にご連絡して清掃を依頼してください。



使い方

【オフシーズン中の保管】

■燃料タンク

燃料タンクに残ったペレットは粉になったり湿気を吸うため、使い切るか取り除いてください。

■電源プラグ

コンセントから電源プラグを抜いてください。

■給排気筒

給排気筒の先端（排気トップ）から鳥や虫が入らないように、排気筒キャップを取り付けてください。

■燃焼室

湿気による燃焼室内のサビを防ぐため、燃焼室に除湿剤を置いてください。

【販売店によるメンテナンス】

扉のガスケットや灰受け皿のパッキン、着火ヒーター等は消耗品です。

2シーズンに1度は消耗品のメンテナンスを販売店に依頼してください。

【ストーブの移転】

引越しなどでペレットストーブの設置位置が変わった場合は、お買い求めの販売店にお問い合わせください。

危険な状態と対処法

【正常な状態】

■良い燃焼

ペレットストーブの炎は、薪ストーブのようにユラユラと燃えるのではなく、黄色く輝く炎になり、勢いもあります。

良い燃焼



【危険な状態】



■ガラスが曇って中が見えない

燃焼状態は目視でご確認ください。

不完全燃焼により窓ガラスが黒く曇っていると、炎や燃焼ポットの状態を確認できないため危険です。運転スイッチを押して消火させ、冷めたらガラスの掃除を行ってください。

ガラスが黒く曇って中が見えない



■赤黒い炎になっている

正常な状態の炎は明るく勢いがありますが、不完全燃焼となっている炎は赤黒く勢いもありません。

運転スイッチを押して消火させ、冷めたら定期的なお手入れを行ってください。

危険な燃焼（不完全燃焼）



■ペレットが山盛りになっている

燃焼ポットの中でペレットが山盛りになったまま使い続けると、炎がペレットが落ちてくる穴を通って燃料タンクのペレットに引火する「逆火」になる恐れがあり大変危険です。運転スイッチを押して消火させ、冷めたら定期的なお手入れを行ってください。



【危険な状態の対処法】



■本体から煙が出た

停電等でストーブが停止すると場合によっては煙が室内に漏れ出することがあります。部屋の窓を開けるなどして換気してください。

緊急消火



■緊急消火方法

燃料タンクから煙が出る等異常な状態になった場合は、水を多めに含ませたタオル等を燃焼ポットや燃料タンク内に投げ入れてください。扉を開ける際は、周囲に可燃物がないことを確認し、やけどにも十分注意してください。

故障かな？ と思ったら

トラブルが起きたときや疑問点があるときは、まずここを読んで対処してください。

症状	考えられる原因	処置のしかた	参照ページ
ストーブが起動しない	■電気がきていない ・電源プラグが挿されていない。	・電源プラグをコンセントに挿し込んでください。	8
	■着火タイマーがセットされている	・着火タイマーのダイヤルを0に戻してください。	9
ペレットが落ちてこない	■燃料が切っていた	・燃料タンクにペレットを入れてください。	9
	■燃料が詰まっている ・燃料タンクのスクリューにペレットや、ペレットの粉、異物が詰まっている。	・燃料タンクからペレットを取り除き、スクリューカバーを外して異物を取り除いてください。	
ペレットに火が点かない	■空気が正常に流れていない ・扉が開いている ・燃焼ポットに灰が残っている。 ・給排気筒に灰がたまっている。 ・排気管キャップが付いている。	・扉をしっかりと閉めてください。 ・燃焼ポットを掃除してください。 ・給排気筒を掃除してください。 ・排気管キャップを取り外してください。	8 9 13
	■点火ヒータの熱が伝わっていない ・燃焼ポットが正しくセットされていない。 ・点火ヒータの筒が灰で埋もれている。	・燃焼ポットを正しくセットしてください。 ・点火ヒータの筒にたまたた灰を掃除してください。	10 11
着火時に大量の煙が出る 着火時に大きな音がすることがあります。	■燃料と空気のバランスが合っていない ・燃焼ポットに灰がたまっている。 ・燃料供給量が多い。 ・空気量が少ない。 ・燃焼室の裏側に灰がたまっている。 ・給排気筒に灰がたまっている。	・使用前には燃焼ポットを掃除してください。 ・起動時は火力ダイヤルをまわして燃料供給量を少なくしてください。 ・ダンパを開いてください。	8 9 12
炎に勢いがない ガラスが黒くなる (不完全燃焼)	■燃料と空気のバランスが合っていない ・燃料供給量が多い。 ・空気量が少ない。 ・燃焼ポットに灰がたまっている。 ・燃焼室の裏側に灰がたまっている。 ・給排気筒に灰がたまっている。	・火力ダイヤルをまわして燃料供給量を少なくしてください。 ・ダンパを開いてください。 ・燃焼室の裏を掃除してください。 ・給排気筒を掃除してください。	8 9 12
運転中に火が消えた (立ち消え)	■燃料と空気のバランスが合っていない ・燃料供給量が少ない。 ・空気量が多い。	・火力ダイヤルをまわして燃料供給量を多くしてください。 ・ダンパを押し込んでください。	8 9
温風が強くなったり 風量ダイヤルがきかない	■過熱防止装置がはたらいた 本体の温度が上がると、自動で温風を最大にして放熱します。	しばらくして温度が下がると元に戻ります。 火力を小さくするか、風量を大きくしてください。	8

故障かな？ と思ったら

ストーブ本体からブザー音がした場合の対処方法

症状	考えられる原因	処置のしかた
運転ランプが 点滅した (ブザー音：ピッ、ピッ)	■一定時間内に着火を確認できなかった 起動から一定時間内に着火を確認できないと、着火失敗と判断して運転ランプが 点滅します。	15ページの「ペレットが落ちてこない」お よび「ペレットに火が点かない」を確認し てください。
	■運転中に燃料切れ／火が消えた 運転中に燃料切れやスクリューの詰まり など、通常の消火や各種エラー以外で消 火すると、運転ランプが点滅します。	15ページの「ペレットが落ちてこない」 および「運転中に火が消えた」を確認して ください。
感震エラーが 点滅した (ブザー音：(ピッ、ピッ)	■感震センサが感知した 地震などの揺れを感じると、安全のた めペレットの供給を停止し、消火します。	地震の場合、揺れが完全におさまってから 再起動してください。
排気・過熱エラーが 点灯した (ブザー音：ピー、ピー)	■過熱センサが感知した 異常な高温を感じました。 安全の為排気し続けます。	過熱エラーが発生した原因を調べるため、 代理店に連絡してください。 ※このエラーが発生すると本体内部の温度 センサーをリセットしない限り再起動でき ません。
排気・過熱エラーが 点滅した (ブザー音：ピー、ピー)	■負圧センサが感知した 排気がうまくされていない可能性が考 えられます。以下の事項を確認してくだ さい ・強風が吹き付けている。 ・積雪で排気トップが閉塞されている。 ・給排気筒に鳥など異物が混入している。 ・給排気筒に煤や灰が大量に付着してい る。 ・熱交換パイプ、燃焼室裏側に煤が多く 付着している。 ・シーズンオフ用の排気管キャップが装 着されたままになっている。	強風が吹き付けている場合は使用を控えて ください。 給排気筒の異物、煤、積雪、キャップを取り除いてください。 給排気筒の掃除、燃焼室裏側の掃除を行 ってください。
運転中に停止した (エラー表示なし)	■運転中に停電した 運転中に停電した場合、排気ファンが止 まるので、給排気筒を立ち上げていない 場合、室内に煙が漏れることができます。	煙が漏れる場合は換気してください。
感震と排気・過熱 エラーが交互に点滅 (ブザー音：ピッ、ピッ)	■排気の監視用のセンサーが故障した センサー自体の故障を検知しました。	ストーブ内部のセンサーの交換が必要です。 お買い上げの販売店に連絡してください。

ブザー音を止めるには運転スイッチを押します。再度運転スイッチを押すと再起動できますが、エラーが発生した原因が解消していない場合、再度ブザーが鳴ります。

故障かな？ と思ったら

異常発生時のエラー表示とブザー音

■燃料切れや着火に失敗した場合（ブザー音：ピッ、ピッ、ピッ）



■地震等の揺れを検知した場合（ブザー音：ピッ、ピッ、ピッ）



■本体が異常過熱した場合（ブザー音：ピーッ、ピーッ、ピーッ）



■強風等で排気がうまくできない場合（ブザー音：ピーッ、ピーッ、ピーッ）



■排気の監視センサーが故障した場合（ブザー音：ピッ、ピッ、ピッ）



仕様

商品名	コンコード・オルコット
暖房方式	強制給排気（FF式）・強制対流形
点火方式	自動着火
使用燃料	木質ペレット（バーク不可）
発熱量（入力）	2,850kcal/h ~ 6,500kcal/h 10,800kJ/h ~ 27,040kJ/h
熱効率	80%
暖房出力	6.0kW
暖房目安	木造（戸建て） 15畳まで コンクリート（集合） 20畳まで
タンク容量	10kg
外形寸法	W470 × D507 × H772
重量	90kg
電源	100V 50Hz・60Hz
定格消費電力 点火時	450W
定格消費電力 運転時	60W/100W
安全装置	感震装置・過熱防止装置・逆圧防止装置
機能	着火タイマー・掃除モード

- 発熱量は、木質ペレットの発熱量、4,300kcal/kg (18,000kJ/kg) を基準に算出しています。
- 暖房目安はペレットクラブ ストーブ規格認証委員会の算出・表示方法に基づき、使用ペレットはペレットクラブ燃料規格A1：4,300kcal/kg (低位発熱量)、畳数は「1,000×暖房出力(kw)/適室基準値（木造398、コンクリート298）」で算出しています。
- 製品改良のため、デザイン、仕様の一部を予告なく変更することがあります。
- この製品は、海外ではご使用になれません。

部品のご入用、故障等の場合、その他取扱上ご不明な点がありましたら、ご遠慮なく
お買い上げの販売店にお問い合わせください。
※製品は改良の為お断りなく仕様・外観等を変更することがあります。

Shimotani

製造元 有限会社シモタニ

〒509-2516 岐阜県下呂市萩原町上村853-1

TEL : 0576-52-3775 / FAX : 0576-52-4801

<https://www.shimotani.com/>

販売店